



ロシアの侵略戦争によってウクライナで発生している  
原子力の平和利用への危機について  
(緊急声明)

2022年3月23日  
日本原子力学会フェロー有志

私たち日本原子力学会のフェロー有志は、ロシアがウクライナに侵略戦争を行い、尊い生命が失われている事態に対して、深い悲しみと早期の停戦実現への強い思いを世界の市民と共有します。

併せて、原子力の平和利用を進める原子力分野の専門家として、今回の事態を原子力の平和利用の危機と捉え、ここに、以下 3 点に亘りその危機の深刻さを記し、国際社会が連帯して停戦実現に向けて努力されることを強く求めます。特に、ザポリーツィヤ原子力発電所については、極めてリスクの高い状況にあると懸念されることから、緊急の対応を求めるものです。

国際原子力機関（IAEA）のグロッシ事務局長は「平和目的の核施設に対するいかなる武力攻撃や威嚇も国連憲章や国際法、IAEA の規約原則への違反である」と強調し、国連安全保障理事会もこれを支持し、ロシアの原発攻撃を強く非難しました。日本原子力学会フェロー有志もこれら国際機関の判断を強く支持するものです。

① ロシアは、ウクライナ国内の原子力発電所への攻撃を行っていますが、戦闘によって電源喪失などが起因となり、重要な安全系の機能が喪失した場合、福島第一原子力発電所事故のように、核燃料が十分に冷却されず熔融し、放射性物質による広範囲の環境汚染を引き起こされる危険があります。

特に、現在ザポリーツィヤ原子力発電所においては、外部電源の供給ラインが次々と失われていると伝えられており、このままでは、外部電源の供給が完全に停止する恐れが高まっています。外部電源喪失時は、非常用ディーゼル発電機が起動することとなりますが、ディーゼル燃料輸送が戦乱状態では困難であり、燃料が消費された時点で、炉心熔融に進展していくと考えられ、メルトダウンから水素爆発、放射性物質の外部放出という福島第一原子力発電所事故と同様の推移を経て、広範囲な環境放射能汚染がもたらされる可能性が否定できません。また、このような非常事態に対応するためのシビアアクシデント緊急対応も、ウクライナの電力会社や原子力規制機関など関係機関が密接な連携の下、適時に適切な措置を行うことも困難な状況下では、有効に機能しないと思われます。

また、他の原子力発電所においても、戦時下という特殊な状況に置かれることによって、運転員が強いストレス等にさらされ、日常弛まず行われている安全点検や保全活動を妨げ、操作ミス・誤判断を誘発し、事故に発展するリスクも高まっていると考えられます。

このため、ロシアによる原子力発電所に対する攻撃を強く非難するとともに、ロシアには、直ちに攻撃を停止し、速やかに原子力発電所の安全と、ウクライナの関係機関による原子力発電所の管理を保証するよう強く求めます。



② 今回、戦争の早期の段階で、ロシアは、チェルノブイリ原発に侵攻し、管理下に置きました。これは、事故後の廃炉と環境修復を責任を持って進めるウクライナの取組を妨害する行為です。また、チェルノブイリ原発の石棺崩壊の危機に対応するため、国際社会が新シェルターの建設等で多大の協力・支援を行ってきたことは、広く知られており、チェルノブイリ原発の事故による原子力災害の悲惨さを知るロシアも、その一翼を担ってきたと考えます。にもかかわらず、その現場に戦闘行為を持ち込んだことは、世界の原子力関係者の努力を踏みにじる野蛮な行為であり、強く非難します。

③ さらに、今回の侵略戦争は、原子力の平和利用の大前提となる国際的な核不拡散体制に対する危機的状況をもたらしていることを指摘します。

そもそも、旧ソ連邦の崩壊後、ウクライナは独立に際して国内に多数配備されていた核兵器をロシアに返還し、核兵器廃絶を実行しました。その際、ロシアを含めた関係国は、ウクライナの安全保障を誓ったにも拘わらず、ロシアは、その誓いを破り、ウクライナに侵略戦争を行い、さらには核兵器の使用をほのめかして、周辺国の介入を阻止しようとする行為に及びました。これは、今後、一度、核兵器を保持した国は、決して核兵器を手放せないことを示すと共に、核兵器を持つとする国々に対して、核保有の正当性を与えることとなりかねず、核不拡散の国際的な枠組みを破壊する行為であり、強く非難します。

また、本年 1 月 3 日には、核兵器を保有する 5 カ国（米、英、仏、ロシア、中国）の首脳が、核戦争や軍拡競争を防ぐための共同声明を発表し、そこで、「核戦争に勝者はなく、決して戦ってはならないことを確認」すると共に、「軍事的対立を回避し、安定性と予測可能性を強化し、相互理解と信頼を高める」ことを宣言しています。核兵器を保有し、国連の常任理事会のメンバーであるこの 5 カ国、なかんずく、ロシアにおいては、直近になされたこの声明を踏まえた責任ある行動を即座に取ることを求めます。

#### 【日本原子力学会フェロー有志】（五十音順）

石隈 和雄、鶴飼 重治、氏田 博士、河西 基、可児 吉男、金氏 顯、黒田 雄二、齋藤 伸三、佐藤 修彰、鈴木 達也、竹下 健二、田中 隆則、田中 治邦、辻倉 米蔵、坪谷 隆夫、鶴田 隆雄、富永 研司、長坂 秀雄、奈良林 直、成合 英樹、橋本 憲吾、早野 睦彦、深澤 哲生、藤田 玲子、堀池 寛、松井 一秋、松井 秀樹、松永 一郎、宮野 廣、向 和夫、村松 健、森 義治、吉田 善行、吉村 忍、若杉 和彦

#### 【問合せ先】

東京工業大学 奈良林 直 （TEL：03-5734-2867）

（以上）